

平成 29 年度

事業報告書
決算報告書

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

平成 30 年 6 月 5 日

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

事業報告

循環型社会の構築を目指し、行政・消費者・産業界が緊密な連携のもとに3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）活動を推進することを目的として、平成29年度は以下の事業を実施した。

1. リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰の実施

3Rに率先して取り組み、顕著な実績を挙げている個人・グループ・学校・事業所・地方公共団体等を表彰する「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」を実施した。

平成29年は、表彰発表から表彰式までの期間を十分に取るため、スケジュールを全体的に前倒しにした。1月中旬に推薦要領を協議会会員団体、全国の都道府県、政令指定都市、中核市、特別区、建設副産物対策地方連絡協議会に配付し募集を行った結果、132件の応募があった。

推薦案件について審査委員会（委員長 東京大学名誉教授 木村文彦氏 他13名）において厳正な審査を行った結果、内閣総理大臣賞2件（分野毎に1件）、文部科学大臣賞1件、経済産業大臣賞1件、国土交通大臣賞6件、環境大臣賞1件、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞53件、計64件を表彰するとの結論に至り、10月31日（火）、東京・竹橋のKKRホテル東京において表彰式を挙行了。

表彰式には、136名（報道機関9名を含む）の出席があった。



内閣総理大臣賞の授与



表彰式の様子

(1) 受賞者

平成 29 年度の受賞者は次のとおり。

内閣総理大臣賞 (2 件)

「個人・グループ・学校」分野 (1 件)

八戸市立種差小学校

「事業所・地方公共団体等」分野 (1 件)

清水建設株式会社 東京ビッグサイト東側仮設展示場の建設事業

文部科学大臣賞 (1 件)

「個人・グループ・学校」分野 (1 件)

福山市立新市小学校

経済産業大臣賞 (1 件)

「事業所・地方公共団体等」分野 (1 件)

トムラ・ジャパン株式会社

国土交通大臣賞 (6 件)

「事業所・地方公共団体等」分野 (6 件)

株式会社大林組 東北支店 気仙沼赤岩港造成工事事務所

株式会社鴻池組 名古屋支店 伊勢・朝熊地区関連施設 (仮称) 整備事業 工事事務所

五洋建設株式会社 大阪支店 国立国会図書館関西館新館 (仮称) 建築工事事務所

大成建設株式会社 東北支店 国道 47 号 猪ノ鼻トンネル工事

西松・屋部宮古伊良部農業水利事業 仲原地下ダム(新垣北部)建設工事共同企業体

戸田建設・溝江建設共同企業体 熊本再春荘病院外来治療棟等更新築整備工事 (建築)

環境大臣賞 (1 件)

「事業所・地方公共団体等」分野 (1 件)

飛田テック株式会社

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞 (53 件)

キリン株式会社 パッケージング技術研究所

学校法人本城学園 本城西幼稚園

リコーロジスティクス株式会社 営業統括事業本部 リサイクル推進部

リコーインダストリー株式会社 御殿場リユースリサイクルセンター

三愛ロジスティクス株式会社 関西リサイクルセンター

【三者連名】

住友橡胶（湖南）有限公司 住友ゴム工業株式会社 【二者連名】
株式会社エレナ
十和田パイオニア株式会社
株式会社近江物産
株式会社大林組 東京本店
堺市古川下水ポンプ場建設工事 大林・大本・国営特定建設共同企業体
鹿島建設株式会社 横浜支店 川崎港臨港道路MP1JV工事事務所
鹿島建設株式会社 関東支店 直轄建築工事茨城地区 日本自動車研究所自動走行システム評価施設建設工事事務所
鹿島建設株式会社 関西支店 京都女子大学工事事務所
鹿島建設株式会社 関西支店 谷岡学園東大阪工事事務所
鹿島・北和共同企業体 佛教大学京都紫野JV工事事務所
鹿島建設株式会社 九州支店 フェニックス・シーガイア・リゾート南エリア解体盛替え計画工事
株式会社鴻池組 (株)ダイセル網干工場南門倉庫新築工事
株式会社鴻池組 青垣小学校建設工事
五洋建設株式会社 東京土木支店 有明工事事務所
清水建設株式会社 横浜野村ビル計画
清水建設株式会社 京橋二丁目西地区再開発建設所
清水建設株式会社 立川駅北口西地区再開発事業施設新築工事作業所
大成建設株式会社 東京支店 秋葉原開発プロジェクト新築工事作業所
大成建設株式会社 関西支店 新名神高速道路 坊川第三橋工事作業所
西日本高速道路株式会社 関西支社 新名神兵庫事務所 宝塚工事区 【二者連名】
大成建設株式会社 (仮称)MM59 街区B 区画開発計画作業所
大成建設株式会社 横浜支店 (仮称)箱根小涌園新ホテル新築工事
仮称川越市新斎場新築工事 大成・岩堀・梶野特定共同企業体
西松建設株式会社 関東建築支社 プロロジス千葉出張所
西松・福田・森本建設共同企業体
西松建設株式会社 関西支店 常翔梅田出張所 学校法人常翔学園 梅田キャンパス (仮称) 新築工事
西松建設株式会社 名取建築出張所
鶴川ダム本体建設工事 前田・東急・植木特定建設工事共同企業体
松井建設株式会社 大阪支店 (仮称)特別養護老人ホーム アネシス小束山新築工事
三井住友建設株式会社 (仮称)中央区新川二丁目計画新築工事
三井住友建設株式会社 大阪支店 武庫川橋作業所
株式会社熊谷組 柏の葉キャンパス148 街区住宅計画 東棟

戸田・佐田建設共同企業体 都水道昭島送水管築造工事作業所
株式会社長谷工コーポレーション (仮称) 八千代緑が丘 A 街区新築工事
株式会社竹中工務店 東京本店 (仮称) 大手町 1-1 計画 B 棟新築工事作業所
竹中・鈴縫・秋山・岡部特定建設工事共同企業体 日立市新庁舎整備事業 第 1 期本体工事 作業所
株式会社竹中工務店 大阪本店 「TSP-ZERO」 開発チーム
竹中工務店・東急建設共同企業体 関西創価中学校・高等学校新金星寮新築工事作業所
株式会社竹中工務店 名古屋支店 代々木ゼミナール名古屋プロジェクト
株式会社竹中工務店 名古屋支店 東和不動産名古屋新第 2 豊田ビル新築工事作業所
株式会社竹中工務店 九州支店 (仮称) D プロジェクト福岡宇美新築工事
飛島建設株式会社 東北支店 山口第 2 トンネル作業所
清水建設株式会社 東北支店 相馬火力煙突基礎地盤改良工事
阪神高速道路株式会社 建設・更新事業本部 堺建設部
鹿島・飛島建設工事共同企業体 関西支店 常磐工区 J V 工事事務所
【二者連名】
一般社団法人横浜建設業協会
株式会社松浦組
特定非営利活動法人循環生活研究所
明星セメント株式会社
デンカ株式会社 青海工場
成友興業株式会社 事業本部 建設事業部 多摩西事業所

(2) 表彰結果の広報

受賞者の受賞した活動の概要をまとめた「平成 29 年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰結果発表」冊子を 1,050 部作成し、467 部を審査結果解禁日（10 月 27 日）に合わせて関係省庁の記者クラブに、250 部を表彰式会場で受賞者等にそれぞれ配付した。

また、協議会会員、推薦機関に 1 部ずつ（合計 217 部）配付した。

(3) 次年度に向けた対応

表彰件数は減少傾向にあり、推薦募集件数の増加のための方策については、審査委員会において継続的に審議している。賞に値する取組にも関わらず応募されていない取組がまだあると考えられるので、これらの取組が推薦されるよう方策を検討している。

また、第 3 回審査委員会（昨年 11 月 28 日）における意見を受けて、企画運営委員会においても昨年 12 月から募集拡大の検討を始めた。

本年 1 月、事務局にて表彰の紹介用プレゼンテーション資料を作成し、協議会会員団体等の求めに応じて事務局が説明に行き、推薦応募の拡大に努めた。

(4) スケジュール

平成 30 年の表彰に向けては、募集の期間を長くしてほしいという推薦機関の要望に応え、募集開始の時期を早くし、平成 29 年度と比べて 1 週間ほど募集期間を長めにした。

<平成 29 年度の主な実績>

(平成 29 年)

1 月初旬	各省後援・大臣賞交付申請
2 月 1 日	推薦募集開始 (推薦機関への案内、ホームページ等で紹介)
4 月 21 日	推薦募集締切り
5 月～8 月	審査 (書面審査、審査委員会)
10 月 31 日	表彰式
11 月 28 日	次年度に向けての検討 (審査委員会)

(平成 30 年)

1 月 22 日	次年度推薦募集開始
2 月初旬	次年度各省後援・大臣賞交付申請

2. リデュース・リユース・リサイクルキャンペーンマークの普及・利用促進

企業・地方自治体・市民団体・業界団体・学校等の要請に応じて、3R 実践活動や啓発・教育活動の場でリデュース・リユース・リサイクルキャンペーンマークを広く使用してもらうことにより、3R に対する意識の醸成や啓発を図った。なお、キャンペーンマークの使用事例はホームページで公開した。

具体的には功労者等表彰などの場を活用して、3R に積極的に取り組む企業・グループ・団体等に対して 3R キャンペーンマークの利用を勧め、3R 推進のアイコンとしての認知度向上を図ると共に、人々の目に触れる機会を増やして 3R に対する意識の定着を図った。

企業では、過去に使用した建設会社や教科書出版社が更新のタイミングで再申請していただけるケースも出てきており、一部においてはマークが定着していると考えられる。

昨年 9 月には、(一社)産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センターと合同で、全国 1,788 の市区町村の 3R・循環型社会推進ご担当者宛に、キャンペーンマーク紹介及び功労者等表彰の紹介のリーフレットを送付した。この取組は平成 28 年度から始めて、今回で 2 回目となるが、以前に比べて自治体の使用例が増えた。

3R キャンペーンマーク
(地方公共団体向けご案内)

このマークは、3R (リデュース・リユース・リサイクル) の意識をわかりやすくイメージすることにより、3R 活動をより親しみやすいものとし、より多くの方々の積極的な参加と協力を呼びかけることを目的につくられたシンボルマークです。

無料
自治体や事業者が無料でお使いいただけます。申請の手続きも、自治体や事業者が実施する場合は、申請料もありません。自治体や事業者が実施する場合は、申請料もありません。

申請手続
自治体や事業者が実施する場合は、自治体や事業者が実施する場合は、申請料もありません。自治体や事業者が実施する場合は、申請料もありません。

功労
マークの功労者、自治体や事業者が実施する場合は、申請料もありません。自治体や事業者が実施する場合は、申請料もありません。

3R キャンペーンマークの使用例

パンフレット (自治体) 作業服のシール (企業) 教科書 (学校)

詳しくはこちら
3R キャンペーンマーク 検索

3R キャンペーン
マーク紹介のちらし

3. 3 R関連団体への後援等

会員団体や3 R関連団体などの活動への後援等を積極的に行い、3 Rの啓発・普及に貢献する。

<実績>

後援：スチール缶リサイクル協会（4月17日）

3 R推進団体連絡会（10月4日）

建設副産物リサイクル広報推進会議（11月1、2日）

協賛：（一社）サステナビリティ技術設計機構（8月18日、平成30年1月24日）

4. 活動強化策の実施

協議会活動を充実させるべく、活動強化策を継続している。内容については、企画運営委員会で審議の上で実施した。（詳細は、別添参照）

なお、平成29年度はホームページのリニューアルを行ったため、企画運営委員会及び総会の承認を得て、3 R推進事業費を70万円増額して170万円とした。

1) 企画運営委員会

前年度に引き続き、協議会活動を充実させるべく活動強化策の具体的な内容の検討や意見交換を行った。

また、平成28年度に立ち上げた東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたワーキンググループの活動の一環として、3月にシンポジウムを開催した。

<実績>

第1回 平成29年 6月28日

第2回 平成29年 9月 8日

第3回 平成29年12月20日

第4回 平成30年 3月16日

この他に、ワーキンググループで打ち合わせ等、行った。

<平成29・30年度企画運営委員>

(委員長)

中村 直 一般財団法人エンジニアリング協会 研究理事

(副委員長)

大石美奈子 公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
代表理事・副会長・環境委員長

(委員)

加藤 聡 ガラス再資源化協議会 代表幹事

田中 希幸 ガラスびん3 R促進協議会 事務局長

新妻 弘章 建設副産物リサイクル広報推進会議

中田 良平 スチール缶リサイクル協会 専務理事

細川 浩之 一般社団法人セメント協会 生産・環境部門リーダー

小川 喜弘 電気事業連合会 立地環境部長

深野 行義	一般社団法人日本ガス協会 環境部長
天川 紀子	一般社団法人日本建設業連合会 参事
村田 利明	一般社団法人日本産業機械工業会 環境装置部長
目黒 雅也	一般社団法人日本自動車工業会 環境統括部長
筒井 将年	一般社団法人日本自動車部品工業会 技術部部長
長谷川賢司	日本繊維板工業会 専務理事
國澤 典生	一般社団法人日本道路建設業協会 常務理事
平田 成	公益社団法人日本包装技術協会 包装材料研究室長
富田 斉	一般社団法人プラスチック循環利用協会 広報学習支援部長

2) 3R連絡会

行政、会員団体、その会員企業等が相互に情報を提供し合い、広範な3R動向の把握、交流を図った(年2回開催)。当連絡会は、会員団体及びその会員企業等、関係省庁に参加を限定し、参加者に共通の話題をテーマにした。

<実績>

第1回(平成29年9月8日)

農林水産省 『食品ロスの削減に向けて』

環境省 『平成29年版循環型社会白書の概要について』

経済産業省 『特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律【バーゼル法】の一部改正』

第2回(平成30年3月16日)

一般財団法人家電製品協会 『家電製品の環境配慮設計』

経済産業省 『欧州プラスチック戦略について』

資料は、協議会ホームページで公開している(一部、非公開)。

(URL) http://www.3r-suishinkyogikai.jp/seminar/3r_meeting/

3) 優秀3R推進活動発表会

平成28年度の3R推進功労者等表彰の大臣賞受賞者に、受賞の取組や受賞後の発展について発表していただき、行政所管、産業分野を越えて広く共有化、普及啓発を図った。当発表会は、会員団体及びその会員企業等、関係省庁に限定して受賞者の取組をご紹介いただいている。

<実績>

開催日: 平成29年6月6日(平成29年度総会後に開催)

テーマ:

(農林水産大臣賞受賞) 全国みりん風調味料協議会/全国発酵調味料協議会

『アルコール発酵調味料のPET製容器におけるリサイクルの適性化への業界全体の取組み』

(経済産業大臣賞受賞) 城東リプロン株式会社(旧:リプロントーク株式会社)

『大型再生プラスチック製品「雨水貯留浸透システム ハイドロスタッフ」の製造販売における3R活動の実践』

(環境大臣賞受賞) 京都市ごみ減量推進会議

『手を取りあってごみを減らそう! 市民・事業者・行政のパートナーシップによるごみ減量』

(内閣総理大臣賞受賞) 株式会社リコー リコー環境事業開発センター
『リユース・リサイクル技術の開発と実践による回収OA機器の徹底活用』

資料は、協議会ホームページで公開している。

(URL) <http://www.3r-suishinkyogikai.jp/seminar/winners/>

4) 3R推進ポスターの制作・配布

工場、工事現場、オフィス、流通などのビジネス現場や公共の場において事業者により3R活動の推進を訴求する「3R推進ポスター」を制作し、10月の3R推進月間に合わせて会員団体、配布した。

ポスターのデザインは、協議会主催によるデザインコンテストで公募し、その最優秀賞作品を使用した。3Rに馴染みのない人たちからも応募があるため、募集に際しては3Rを簡単に紹介したリーフレット『3Rって何だろう?』を案内に同封するとともに、協議会ホームページでも公開して、3Rを正しく理解してもらえるように努め、啓発の機会とした。

<実績>

デザイン募集期間：平成29年2月3日～6月9日

応募作品数：185点

選考日時：平成29年6月28日

選考結果：最優秀賞1点(伊藤 史織 様(北海道、大学院生))、佳作12点

ポスター印刷枚数：1,100部(A1サイズ)

受賞作品、3R推進ポスターについては、協議会ホームページで公開している。

(URL) <http://www.3r-suishinkyogikai.jp/poster/pastaward/>



最優秀賞受賞作品



3R推進ポスター

印刷したポスターは、会員団体、関係省庁、主な地方公共団体の3R関連部署などに配付した。

また、「暮らしの包装容器展（日本包装技術協会主催）」や「エコプロ2017（産業環境管理協会、他主催）」の会場でのポスター掲示、全国漁業協同組合連合会の会員向けのお知らせへの縮小版のちらし同封、文部科学省の全国生涯学習・社会教育主管部課長会におけるポスター配付など、様々な機会において3Rの啓発活動等にご利用いただいた。



「暮らしの包装容器展」での掲示

当ポスターは過去の方も含めて協議会のホームページ上に公開しており、誰もが自由にダウンロードして利用可能としている。

(URL) <http://www.3r-suishinkyogikai.jp/poster/guide/>

5) 3R関連の機関や団体等とのイベント協業

3R関連の機関や団体との協業を積極的に行い、より広範な3Rの情報提供に努めた。

<実績>

3R推進全国大会（環境省、3R活動推進フォーラム等主催）への出展（平成29年10月24日）
循環・3Rリレーセミナー（3R活動推進フォーラムとの共催）（平成30年2月2日）

<「循環・3Rリレーセミナー」の講演内容>

慶応義塾大学経済学部教授 細田 衛士『循環型社会の道筋を展望する』
農林水産省『食品ロス削減とリサイクル政策』
環境省『循環型社会に向けた3R施策について』
経済産業省『資源効率性・循環経済に関する動向』
株式会社エックス都市研究所『SDGsが変える生産・消費等』
公益財団法人地球環境戦略研究機関『RE/CE政策のわが国への影響』
横浜市『横浜市における分別収集の現状と効率性』

このセミナーにおける配付資料は、協議会ホームページで公開している。

(URL) <http://www.3r-suishinkyogikai.jp/seminar/joint/>

6) 優れた3R活動事例の普及啓発（3R推進功労者等表彰受賞者の活動広報）

昨年度末に開始した平成25、26年度の内閣総理大臣賞及び各大臣賞受賞者についての受賞後の取組状況のフォローアップ調査及び過去に実施したフォローアップ調査（対象年度：平成17～24年度）の再フォローアップを実施した。

受賞以降も活動を継続または拡大している受賞者が多いが、受賞から年数が経つにつれて活動を縮小したり、終了したりしている受賞者もいる。縮小や終了している理由としては、学校の場合では当時中心となって指導していた先生の異動等により後が続かなかったこと、企業では買収や事業再編により実践していた取組の見直しが挙げられていた。

これらの結果は、3R推進協議会ホームページの「受賞者のその後の取組」（3R推進功労者等表彰 大臣表彰受賞者のその後の取組の紹介）のページの内容に掲載している（掲載の許可があったもののみ）。

(URL) <http://www.3r-suishinkyogikai.jp/seminar/joint/>

7) ホームページによる情報発信の強化

ポスターやセミナーなど活動強化策のコンテンツが充実してきたため、これらのコンテンツの認知度を上げ、容易にアクセスできるようにデザイン・構成等をリニューアルした。

また、スマホやタブレットの普及に対応して、レスポンス・ウェブデザイン（訪問者が使っている端末（パソコンやスマホ）の「画面サイズ」によって、ホームページの形が自動的に切り替わるようにする仕組み）を取り入れ、モバイル環境や若年層の閲覧者にも配慮した。

新たに会員向けページを作成し、企画運営委員会での配付資料、議事録（閲覧するにはIDとパスワードが必要）を掲載して、活動強化策の検討状況などが分かるようにした。

8) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた活動

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて3Rの普及啓発を強化する施策を検討・実施した。

平成 29 年度は、企画運営委員会のワーキンググループが中心となってシンポジウムを開催した（平成 30 年 3 月 27 日）。シンポジウム当日は、大臣、組織委員会、省庁から来賓ご挨拶をいただき、続けて細田会長の基調講演、企業等による3つの素材の3Rをテーマにした講演を行った。



<講演内容>

細田会長

『マテリアルリサイクルに向けた3Rの取組み』

J F E 鋼板株式会社

『鉄鋼製品の3Rの取組と低炭素社会構築への対応』

リネットジャパングループ株式会社（小型家電リサイクル認定事業者協議会）

『都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト』

ガラス再資源化協議会

『ガラス3R技術によるヒートアイランド・クールダウン』

決算報告

平成 29 年度 収支決算書

自 平成 29 年 4 月 1 日 至 平成 30 年 3 月 31 日

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 額	備 考
I 収入の部				
1. 会費収入	4,530,000	4,450,000	△ 80,000	平成 28 年度末付けで退会 1 件
2. 雑収入（受取利息収入等）	0	46	46	
3. 前期繰越収支差額	4,292,000	4,292,876	876	
当期収入合計（A）	8,822,000	8,742,922	△ 79,078	
II 支出の部				
1. リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰事業の実施	3,700,000	3,395,910	△ 304,090	表彰式会場費、委員会関係費、推薦要領・表彰結果冊子印刷費・発送費、表彰状作成費等
2. 3R キャンペーンマークの普及	160,000	40,551	△ 119,449	3 R キャンペーンマークの紹介を印刷（全市区町村に配付）
3. 企画運営委員会経費	0	0	0	交通費等は各委員又はその所属団体が負担。場所は経済産業省の会議室にて実施
4. 3R 推進事業費（活動強化策実施のための費用）	1,700,000	1,643,129	△ 56,871	サーバーレンタル費、ドメイン名使用料、事例発表会講演者の謝金・交通費、3 R 推進ポスター（作品募集、印刷、賞金）、3 R 全国大会出展、3 R 活動推進フォーラムとの共催イベント（会場費、謝金、印刷費等）、ホームページ改造（予算を 70 万円増額）
5. その他経費	50,000	46,440	△ 3,560	総会・理事会開催費用
6. 事務局経費	0	0	0	上記 1～5 に係る事務局経費（人件費及び事務局運営諸費用）。実際に発生した事務局経費は、協議の結果、産業環境管理協会が負担
7. 管理費	150,000	94,456	△ 55,544	通信費、消耗品購入費、封筒印刷費、振込手数料等（直接事務に係る費用のみ。事務局運営諸費用を除く）
当期支出合計（B）	5,760,000	5,220,486	△ 539,514	
当期収支差額（A）－（B）	3,062,000	3,522,436	460,436	

正味財産増減計算書
(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

科 目	金 額
I 増 加 の 部	
当期経常収益	4,450,046
増 加 額 合 計	4,450,046
II 減 少 の 部	
当期経常費用	5,220,486
減 少 額 合 計	5,220,486
当期正味財産増減額	△770,440
前期繰越正味財産額	4,292,876
期末正味財産合計額	3,522,436

貸 借 対 照 表
平成 30 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
現金	83,162	未払金等	30,357
普通預金	3,202,495		
前払費用等	267,136	III 正味財産の部	3,522,436
合 計	3,552,793	合 計	3,552,793

財 産 目 録
平成 30 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額
I 資 産 の 部	
現金 現金手許残高	83,162
普通預金 三菱東京UFJ銀行本店 (*)	3,202,495
前払費用	267,136
資 産 合 計	3,552,793
II 負 債 の 部	
未払金	30,357
負 債 合 計	30,357
正 味 財 産	3,522,436

(*) 平成 30 年 4 月 1 日以降は、名称が「三菱UFJ銀行」となる。

計算書類に対する注記（平成 29 年度）

1. 重要な会計方針

(1) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金、預金、前払費用及び未払金を含めている。

なお、前期末及び当期末残高は 2. に記載のとおりである。”

(2) 消費税は、税込方式を採用している。

2. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現 金	34,700	83,162
普 通 預 金	4,031,059	3,202,495
前 払 費 用	255,344	267,136
(合 計)	4,321,103	3,552,793
未 払 金	28,227	30,357
(合 計)	28,227	30,357
次期繰越収支差額	4,292,876	3,522,436